

唐沢山城跡を再発見しよう！

上空からの精密な3次元測量によって出来上がった唐沢山城跡中央部の「地形起伏図」です。これを見ると、拠点としての堅固な城を築くため、山の広範囲にわたって尾根筋を削平し、堀や土塁(土手)などを設けていたことがよくわかります。本丸周辺には、安土桃山時代の貴重な高石垣が今日まで残り、唐沢山城跡のシンボリック存在といえますが、194haにも及ぶ広大な史跡の中には、いたる所に敵からの攻撃を防いだ城造りの跡が残っています。

この図には、城跡のおもだったところに説明を加えてありますが、それ以外のところもよく見てみると、曲輪(くるわ)などの平坦面や堀跡、古い道筋などを各所に見つけることができます。ぜひ、新たな発見を楽しんでください。

なお、山内は危険な場所があります。貴重な植生にも悪影響を及ぼしますので、参道や遊歩道からはずれないでください。



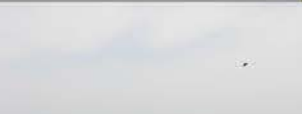
②花の季節の大井



⑭天狗岩からの展望



⑬屏風岩からの展望



⑫権現堂からの展望



⑫権現堂からの展望



①大手虎口



②大井の雪景色



③四つ目堀



④大岩が屹立する千騎口



⑤大手道沿いの紅葉



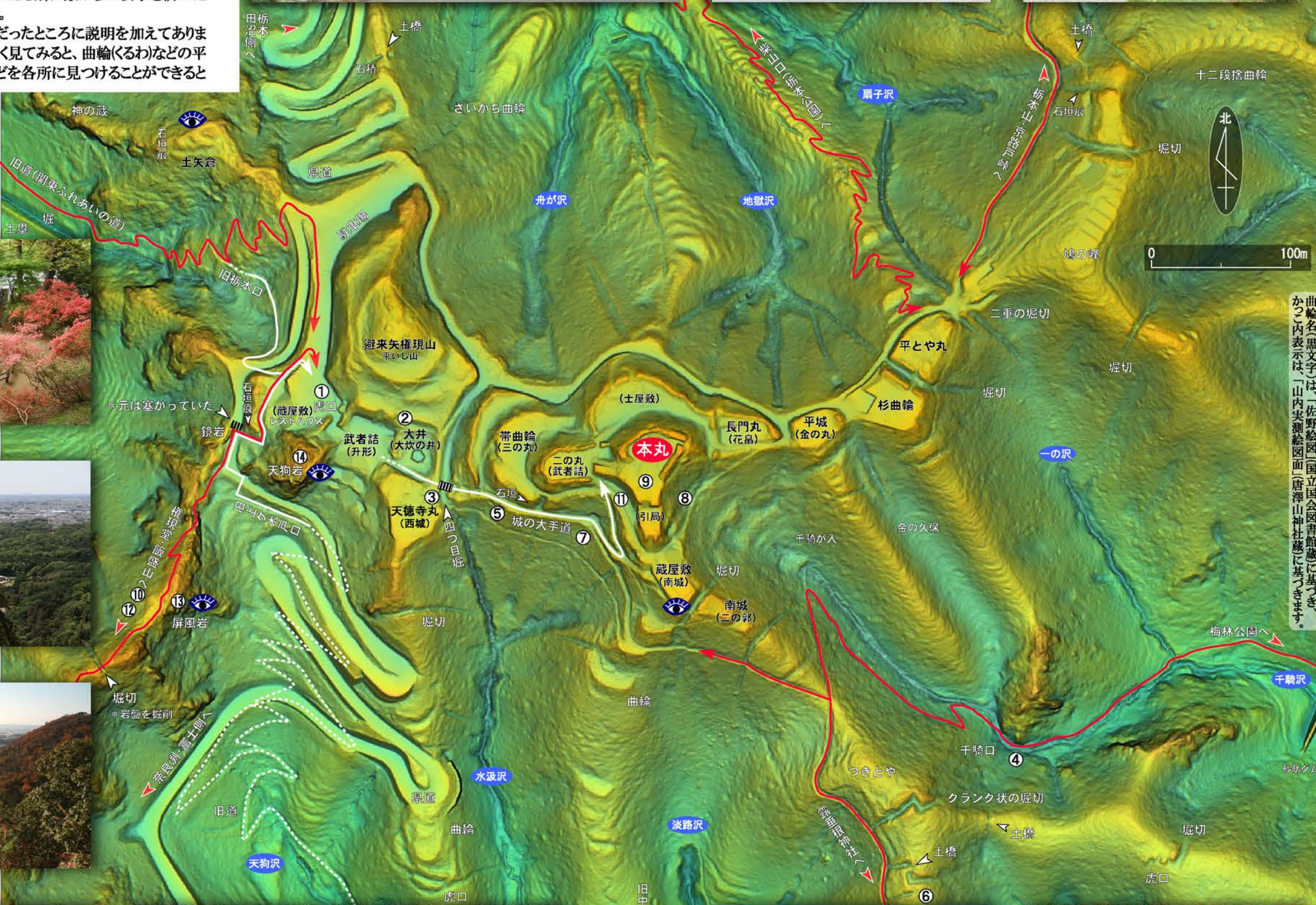
⑥唐沢山城最大の土橋



⑦つつじの季節の大手道



⑧本丸裏の石垣



曲輪名(黒文字)は、「佐野絵図」(国立国会図書館蔵)に基づき、かっこ内表示は「山内実測絵図面」(唐澤山神社蔵)に基づきます。

唐沢山城跡は、季節を問わず楽しむことのできるハイキングポイントが各所にあります。



⑩水面に映る飯盛山の紅葉



⑨唐澤山神社